

取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	高齢者の在宅生活継続に向けた自立支援と重度化防止の推進
------	-----------------------------

年度	令和3年度
----	-------

後期（実績評価）

実施内容

1. アウトカム指標として、目標に掲げた2つの指標の検証を行う。

(1) 市民意識調査の「生活の中で生きがいを感じている」、「現在の住環境で、生涯、安心して快適に暮らすことができると思う」「健康である」と回答した65歳以上の人数割合

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
日頃生活の中で生きがいを感じている	78.0%	79.8%	75.8%	95.0%
現在の住環境で、生涯、安心して暮らすことができる	69.4%	69.2%	69.0%	99.7%
自分は健康である	73.4%	74.5%	74.3%	99.7%

(2) 令和元年度に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による健康に関連する指標の状況（地域間比較については、見える化システムからのデータ情報がなく、検証できなかった。）

次回の調査は令和4年度に実施

項目	平成28年度	令和元年度	前回比
運動器機能低下	15.0%	11.7%	78.0%
閉じこもり	17.7%	16.7%	94.4%
転倒	32.5%	29.4%	90.5%
低栄養	1.4%	0.9%	64.3%
口腔機能低下	24.1%	22.7%	94.2%
認知	46.9%	45.0%	95.9%
うつ	38.0%	37.0%	97.4%
手段的自立度低下	5.2%	4.1%	78.8%
知的能動性低下	12.0%	13.0%	108.3%

2. アウトプット指標 8 項目の指標について、検証する。

指標① 多職種連携によるケース検討数

令和元年度 80 件 令和 2 年度 86 回 令和 3 年度 96 回 (前年度比 111.6%)

指標② 第 1 号被保険者認定者数及び認定率

	令和元年 3 月末	令和 2 年 3 月末	令和 3 年 3 月末	前回比
第 1 号 被保険者数	24,871 人	25,212 人	25,485 人	101.1%
認定者数	4,218 人	4,366 人	4,507 人	103.2%
(内訳)				
要支援 1	320 人	369 人	416 人	112.7%
要支援 2	618 人	669 人	729 人	109.0%
要介護 1	854 人	891 人	873 人	98.0%
要介護 2	906 人	906 人	905 人	99.9%
要介護 3	625 人	639 人	663 人	103.8%
要介護 4	557 人	568 人	614 人	108.1%
要介護 5	338 人	324 人	307 人	94.8%
認定率	17.0%	17.3%	17.7%	102.3%
(内訳)				
要支援 1	1.3%	1.5%	1.6%	106.7%
要支援 2	2.5%	2.7%	2.9%	107.4%
要介護 1	3.4%	3.5%	3.4%	97.1%
要介護 2	3.6%	3.6%	3.6%	100.0%
要介護 3	2.5%	2.5%	2.6%	104.0%
要介護 4	2.2%	2.3%	2.4%	104.3%
要介護 5	1.4%	1.3%	1.2%	92.3%

指標③ 特定健康診断、がん検診の受診率

項目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	前回比
特定健康診査実施率	43.1%	43.4%	43.9%	101.2%
胃がん検診受診率	14.7%	12.0%	12.7%	105.8%
大腸がん検診受診率	27.4%	24.3%	25.7%	105.8%
肺がん検診受診率	34.4%	32.7%	34.2%	104.6%
乳がん検診受診率	19.4%	13.6%	15.1%	111.0%
子宮がん検診受診率	22.8%	18.1%	20.0%	110.5%

※令和 3 年度特定健康診査受診率は速報値。確定値は 11 月。

指標④ 「まちの保健室」相談件数

令和元年度 28,973件 令和2年度 28,402件 令和3年度 30,519件
(前年度比 107.5%)

指標⑤ 認知症サポーター養成数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前回比
養成者数	1,233人	459人	159人	34.6%
参考:年度末までの合計養成者数	10,736人	11,195人	11,354人	101.4%

指標⑥ 医療・介護多職種連携研修の実施件数、参加人数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前回比
実施件数	10回	0回	1回	-
参加人数	1,152人	0人	102人	-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催中止

指標⑦ 地域における生活支援活動の実施状況

	令和2年3月末	令和3年3月末	令和4年3月末	前回比
生活支援活動	10地域	10地域	11地域	110.0%
コミュニティカフェ (カフェスペースでの交流の場)	8か所 (8地域)	8か所 (8地域)	8か所 (6地域)	100.0% (75.0%)
ふれあい・いきいきサロン (高齢者等サロン)	84か所 (15地域)	84か所 (15地域)	84か所 (15地域)	100.0% (100.0%)
配食ボランティア	8団体 (8地域)	8団体 (8地域)	9団体 (9地域)	112.5% (112.5%)

指標⑧ 地域づくり活動に参加したことの65歳以上の市民の割合

令和元年度 71.7% 令和2年度 70.9% 令和3年度 70.4%
(前年度比 99.3%)

自己評価結果

目標に掲げた市民意識調査は、令和3年度は、「現在の住環境で、生涯、安心して快適に暮らすことができると思う」、「日常生活で生きがいを感じている」「健康である」と回答した65歳以上の人の割合は、すべてにおいて減少した。昨年度同様、社会全体の地域活動が少ない等、コロナ禍による影響を少なからず受けているのではないかと考える。また、要介護状態にない65歳以上の人を対象とした介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果については、次回の調査は令和4年度となるため、今回は未検証となった。

アウトプット指標としての8項目の指標については、令和3年度は「多職種連携によるケース検討数」、「特定健康診断、がん検診の受診率」、「まちの保健室 相談件数」は前年度を上回る結果となった。昨年度に引き続き、通いの場等の開催ができない中で、まちの保健室職員の電話や訪問による支援やフレイル予防・感染防止対策のチラシを高齢者世帯等に配布するなどの取組、また、健診結果により、低栄養・口腔機能低下については、個別の健康教育を保健師や他専門職と行い、介護予防・重度化防止に取り組んだ。

課題と対応策

第7期計画期間における市民意識調査及び介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を踏まえ、第8期計画期間においては、引き続き介護予防・重度化防止の取組を進めていく必要がある。

高齢者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続していくためには、健康づくりや介護予防の取組と併せて地域での支え合いが重要である。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各地域における取組を実施するにあたり困難な状況が続いていること、また、支え合い活動のボランティアや健康づくりや介護予防に取り組む「まちじゅう元気!!リーダー」（平成27年度より育成）等の高齢化や担い手不足についても、今後の活動継続に向けての課題である。新たな人材の育成や支援体制の充実が必要である。

これまでの取組を継続するとともに、「まちの保健室」や「地域福祉教育総合支援ネットワーク」など相談支援や連携機能のさらなる充実を図るため、多機関協働や参加支援、地域づくりを重視した重層的支援体制整備事業の取組を強化することにより、高齢者の在宅生活継続に向けた自立支援と重度化防止を推進していく。